

A分科会 自分ごととして「避難所運営」を考える。～避難所運営ゲーム(HUG)実施を通じて 報告

酒田支部 小山恵子

2011年の東日本大震災のジレンマから防災士を獲得し、仲間達と「チームくしろ防災女子」を立ち上げた北海道釧路市の金子さんから、仕事に食い込むボランティアで良いのか、補助金の為の煩雑な書類、官民共同の運営の厳しさ、苦勞に反比例する無力感をお聴きました。会の後半には班に分かれてHUG・避難所運営ゲームを体験。避難場所の設定は学校で、敷地には駐車場と校舎体育館が配置され、次々と集まる避難者・乳幼児有、高齢者、単身、ペット連れ、障がい者、三世大家族等を付箋にし場所の割り当てを即断し貼り付けます。それに加え、お偉方の視察、支援物資の搬入、ゴミの収集など、卓上の訓練は実際に必要な事ばかりでした。



B分科会 白川村合掌造迎賓館「好々庵」 報告

村山支部 草刈めぐみ

古民家復権作戦をテーマに、白川郷合掌造り古民家を高断熱・高气密補強設計した事例の発表が行われた。コメンテーターは阿部和建築研究所の安井妙子さん。30年以上にわたり古民家に断熱・耐震補強を施す活動を続け、受賞歴・雑誌掲載・テレビ出演など幅広く活躍されている。経験豊富な安井さんが依頼当初は「本当に断熱気密が可能なの？」と不安も口にしていたことに親しみが湧きつつ、伝統的な意匠を残しながら性能を実現するための工夫が紹介された。断熱気密ガラスボックスを設置し、内部から合掌部を間近に見られるだけでなく、ボックスを出ることも可能とした。囲炉裏も使用可能とし、床下で外気調和した空気を導き、煙は直上のダクトで外部へ排出する仕組みとした。さらに、ガラス断熱雨戸、木製断熱気密サッシ、低温水放射暖房パネル、防災設備なども備え、建築性能を確保。総勢60名の聴講者が参集し、真剣に耳を傾けていた。



C分科会 ちびっこ「ちよこっとプランニング」 報告

新庄支部 奥山恵美

皆さんは建築に興味を持ったのは、いつですか？私の場合は、部屋の模様替えが建築への入口だったと思います。C分科会のちびっこ「ちよこっとプランニング」は、子供たちに間取りのプランニングを体験していただく活動の報告でした。シールを活用したプランニングは年齢を問わず楽しめる工夫だと感じました。また、子供たちにスケール感を意識させてプランニングさせることは、建築の入口への誘いになるのではないかと思います。「ちよこっとプランニング」に参加した子供たちが建築の未来を担ってくれることに期待!!



D分科会 介護保険適正化事業 報告

長井支部 小笠原華奈子

岐阜県建築士会は、福祉住環境コーディネーター等の基礎知識を持つ「福まち建築士」が活動され、県の「介護保険制度における住宅改修適正化事業」担当者との情報共有の工夫や、「介護保険における住宅改修チェックリスト」作成等されているご報告でした。広域連合や市と協定を締結し、事前申請書類の点検業務を行い、その際、手摺の下地・固定方法の不明瞭さ等の同じ指摘が頻出した為、共通報告書、LINEでの情報交換、チェックリスト作成、ケアマネ等向けの研修協力等、知識の底上げと事業の円滑化を図っていました。参加者との意見交換では、建築士の人員不足や自治体毎の制度や知識差といった課題が共有され、有意義な議論が繰り広げられました。



E分科会 建築士の役割を一般の方にわかりやすく伝える /林業木材産業との協働の中で 報告

鶴岡田川支部 斎藤美恵

秋田県・和歌山県の建築士会、林業木材産業の活動報告と意見交換が行われました。秋田県から産官学の取り組みで行われている出前講座についてお聞きしました。金足農業高校で行われた出前講座では木造建築にからめて建築・土木の仕事や、建築士を含めた業界の重要性を伝え、また木造建築に興味を持ってもらえるよう地元の建具メーカーが開発した組子を生徒たちに組立て体験してもらう活動について報告いただきました。和歌山県から県産材を使った木のカレンダーキットを作成し、これを利用して林業木材産業との協働で行っている木育活動について報告いただきました。森林の利活用や美しい日本を後世に繋ぐため建築士の役割周知、木育活動が大切だと強く感じたプログラムでした。



F分科会 建築士としての「防災」を今、考える 報告

鶴岡田川支部 栗本直美

F分科会は、計45名が参加し、司会は岡山県建築士会の渡辺睦氏、コメンテーターとして防災士でもある神奈川県建築士会の河原典子氏と深谷美登里氏により、防災をテーマとした分科会を開催しました。前半は、銀山温泉をモデルに国土地理院の「重ねるハザードマップ」を体験し、その正確な読み解き方および建築士としての情報伝達の在り方について学びました。後半は、架空地域を想定した水災対応ワークを行い、防災前後の状況を想定しつつ建築士としての助言や支援方法を検討しました。自然災害の予測は困難であるが、災害への備えの重要性を再認識しました。参加者からは、自ら学び実践を広げていこうとする意欲が示され、有意義な分科会となりました。



G分科会 伝統と未来を繋ぐ古民家再生 報告

米沢支部 村山紀子

コメンテーター 中野久美(群馬建築士会)は着物を素敵に着こなす方で、私の地元群馬出身ということもあり辛口な意見も親しみを感じました。実際に古民家を購入して再生をする所の話も度胸ある行動にも感動し、これから古民家を再生させるかたの相談に積極的に参加をしたり、古民家再生の意義を再考する場になりました、実際購入して再生する立場で意見できる強さを感じました。また、趣味の着物の帯再生のバッグを海外で販売する等、古い物を再生して活用するところにも感動しました。コメンテーター 近藤富美(福岡建築士会)古民家をコンバージョン、リノベーションしながら、古民家の持つ新しい魅力を引出す取り組みが面白かったです。また、建築基準法との取組方等大変参考になりました。古民家を再生し地元を活用していく用途変更の仕方と特性の活かし方勉強になりました。中野さんも、近藤さんも、地元愛と地元生活に密着した取り組みが大変良かったです。私も一つでも見習い、行動出来たらと思える大変になるプログラムの講演でした。



山形建築士会女性委員会広報誌

2025年12月発行 令和7年度 第1号 担当 酒田支部

あれこれ

令和7年度 第34回全国女性建築士連絡協議会 やまがた大会報告 特別号

『山形から発信 みらいへつなぐ木への挑戦』
～雪・山・川がおりなす食文化と共に～
2025年7月19日20日開催



第34回全国女性建築士連絡協議会やまがた大会、大成功!

実行委員長 原田 江美子

令和7年7月19日と20日に、山形で「第34回全国女性建築士連絡協議会やまがた大会」が開催され、大盛況のうちに幕を閉じました。

◆準備は手探り、みんなで作り上げた大会

山形での開催が正式に決まってから、女性委員会は実行委員会を中心に準備をスタート。最初は右も左もわからない状態でしたが、大会テーマや基調講演、エクスカージョンのコース選定など、みんなで意見を出し合い、熱心に議論を重ねて内容を決めました。山形のご当地キャラクター「きてけろくん」や「はながたベニちゃん」、「やまがた愛の武将隊」との交渉や手配も、すべて実行委員会の企画によるものです。



山形のご当地キャラクター
右「きてけろくん」中央「はながたベニちゃん」左「やまがた愛の武将隊」

◆山形らしさ満載の大会テーマ

大会のテーマは「山形から発信みらいへつなぐ木への挑戦」～雪・山・川がおりなす食文化と共に～。山形ならではの魅力を参加者の皆さんに存分に感じてもらいたいという想いが込められていました。



山形県建築士会 青年委員会:
炎天下の中会場誘導、分科会機材・会場設営等ありがとうございました。

◆トラブルを乗り越えて、全国から300名以上が参加!

開催が近づくにつれて、山形新幹線のトラブルによる大規模な運休や全国的な猛暑など、参加者への影響が心配されました。しかし、こうした困難にもかかわらず、全国から約300名が現地に集まり、オンライン参加者を含めると総勢361名もの方々が参加しました。山形テルサを会場に、開会式や被災地報告、基調講演が実施され、夜にはホテルメトロポリタン山形で約270名が参加する大懇親会も開かれました。

◆広がる建築士の輪

この大会が、全国の建築士の皆様が交流し、情報交換を行う場となりましたことを、実行委員会一同大変喜んでおります。青年委員会の皆様には、準備段階から大会当日まで多岐にわたるご支援をいただき、心より感謝いたします。

◆嬉しい声がたくさん!

参加者からは、「とても良かった」「楽しかった」「山形が大好きになった」といった嬉しい感想が多数寄せられました。連合会の古谷会長や上原副会長からもお褒めの言葉をいただきました。



日本建築士会連合会・山形県建築士会 女性委員会:
大会受付開始前の集合写真

◆皆様に感謝!

皆様のご支援、ご協力のもと盛會に終了いたしましたことに改めて感謝とお礼を申し上げます。ありがとうございました。

基調講演 参加者:女性建築士355名(内ZOOM参加60名) 建築士协会会员・賛助会員85名 大学・高校生29名・教員2名・一般8名

テーマ:「木造建築の可能性」

講師:瀬野 和広 氏(瀬野和広+設計アトリエ)
鍋野 友哉 氏(鍋野友哉アトリエ/TMYA主宰)

西村山支部 大泉 みどり

本講演は、お二人に“木造建築”を軸に、地域・素材・設計者の視点から未来を見据えた内容について掛け合い形式の対談をお聞きしたいと依頼し実現の運びとなりました。お二人の異なる視点(素材重視/構法重視)が交差し、多角的な学びの場となり、設計者・女性建築士として、地域に根ざした“木”を活かす動きを具体的に捉える機運が高まったと感じられる講演会となりました。

質疑応答の内容(抜粋)を紹介します。

1.地域材を使用する際の課題は?

瀬野氏:木材の乾燥方法やトレーサビリティの問題が重要であり、地域材を活用するには、木材がどのように育ち、どう加工され、どう使われていくかを追跡できる仕組みが必要である。地域に根ざした生産の体制づくりが進まない限り、木材の活用は限られる。

鍋野氏:CLT(クロスラミネーテッドティンバー)の活用を通じて、木材の新たな可能性を追求している事例を紹介。CLTの製造工程や取り扱いの技術面での改善が求められている。地域材の認知度を高め、“木材の強さ”や“可能性”を設計として証明することが重要である。

2.木材の持続可能性と環境への影響は?

瀬野氏:木は再生可能な素材であり、適切に管理されれば非常に持続可能な資源とし、さらに木造建築が“カーボンニュートラル”の観点からも効果的である。一方で、木材の管理や伐採方法が環境負荷に直結することから、持続可能な森林管理が必須だ。

鍋野氏:木材の活用が地球環境への貢献として非常に大きな可能性を持つため、森林管理が重要性である。木材の選定基準として、地域性や伐採後のサステナビリティが大切であり、製造過程でのエネルギー消費や運搬による影響についても考慮するべきである。

3.設計者が地域や素材にどのように関わるべきか?

瀬野氏:設計者は木と向き合う際、地域との強い結びつきを持つべきであり、地域の木材や森林との関係性を重視すべきである。特に、山の持つ独特の資源を活かすためには、設計者が積極的に地域と向き合い、木材の特性を理解する責任がある。「設計者よ、山に恋い!」

鍋野氏:設計者が地域に密着した形で“地域の文化や自然と調和した建築”を目指すべきだと語り、設計者が地域との繋がりを持ちながら、木材を生かした独自の建築をつくるのが、地域の活性化にも繋がる。

質疑応答では、木材の活用に関する実践的な課題や、持続可能性、地域との関わりについて深い議論が交わされました。また、設計者が地域資源をどのように活かし、未来へ繋げるかというテーマが強調され、木造建築が単なる技術的な挑戦に留まらず、社会や環境に対する責任を伴うものであるという意識が共有されました。



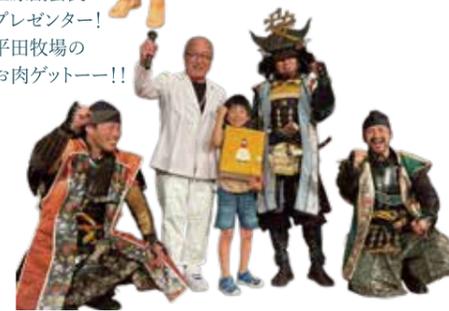
※基調講演の様子は下記のURLにて拝聴いただくことが可能です。是非ご覧ください。 <https://www.youtube.com/watch?v=TAznb4AdBE0>



秋野副会長の挨拶



上原副会長
プレゼンター!
平田牧場の
お肉ゲットー!!



古谷会長特別賞の少年。将来は武士か建築士?

大懇親会開催 報告

天童支部 小鷹貴子



息もびったりな司会者お二人

ホテルメトロポリタン山形の大宴会場「霞城」にて懇親会が開催され、約270名もの皆さんに参加いただきました。参加率は9割を超え、さらに連合会の古谷会長、上原副会長ご夫妻もご出席くださり、「全建女やまがた」への期待の大きさを感じました。原田実行委員長とともに司会を務める私も、その雰囲気の後押しされ気合が入りました。県士会秋野副会長の挨拶に始まり、連合会上原副会長の祝辞、続いて全国各ブロック代表による活動報告「ワン・バイ・ワン」が行われました。いよいよ乾杯となり、県士会石山副会長のご発声で杯が高らかに掲げられました。会食では山形名物の大鍋芋煮をはじめ、県内の酒蔵から選りすぐった日本酒やワインを用意しました。中でも山形が誇る銘酒「十四代」は大きな目玉となり、さらに各支部から届けられた祝い酒も加わり、全国の皆さんに山形のおもてなしを感じていただけたと思います。アトラクションでは、米沢市を拠点に活動する戦国武将隊「やまがた愛の武将隊」が、「いざ出陣!」の掛け声とともに登場。直江兼統、水原親憲、千坂景親の三武将による迫力ある演武やトーク、さくらんぼ体操で、会場は手拍子と「エイエイ、オーオー!」の掛け声で一体となり熱気に包まれました。続く企画「山形まるごと大抽選会」では、県民に馴染み深い品や特産品を多数用意しました。原田実行委員長が「おしどりミルクケーキ」や「でん六豆」のCMソングを披露し会場を和やかな雰囲気に。基調講演講師の瀬野氏、鍋野氏、さらに武将隊にもプレゼンターとして会場を盛り上げていただきました。抽選会の終盤には豪華賞品が登場。とっておきの日本酒は我が県士会の伊藤会長、米沢牛や平牧セットは古谷会長と上原副会長からプレゼンターとして贈られ、特別感あふれるひとときとなりました。最後は原田実行委員長の挨拶と、山形ならではの「花笠締め」でフィナーレ。帰りのお見送りでも武将隊とともに山形のプチ土産をお渡しし、皆さんをお送りしました。参加者からは「料理もお酒も美味しく、とっても楽しかった」「やまがた愛の武将隊のファンになった!」といった声が多く寄せられました。これも、本会の受付から懇親会のお見送りまで長時間にわたりご協力くださった「やまがた愛の武将隊」、そして全面的に支えてくださった親会や青年委員会、協賛いただいた皆様のお力添えのおかげと、心より感謝しております。この度は、大懇親会の企画担当をした山形支部からの声かけで司会を務めさせていただきました。主催者の一員として、会場全体が一体となって盛り上がり、皆さんの楽しんでいる姿を見ることができたことは、大変貴重な経験となりました。そして、この「全建女やまがた」の思い出が、皆さんの心にいつまでも残ることを願います。



懇親会が無事終了し、記念すべき大会1日目も無事に終えることができました。明日の分科会・エクスカージョンに向けて、もうひと頑張り!みんなで気合を入れて記念撮影!

エクスカージョンA 文翔館とコパル見学 山形支部 齊藤智恵美

山形らしい猛暑日の中、お昼は紅の蔵のお蕎麦ランチを堪能しました。各々、直売所の「ラ・フランスソフト」や“大人のバインサイダー”で元気をチャージしてから文翔館へ。文翔館ではボランティアガイドによる歴史的背景を聞きながら当時の技術やデザインに触れ、山形の歴史と美を感じていただきました。やはり歴史的建造物だけあって空調が追い付かず、汗だくの見学になりました。コパルでは、インクルーシブ施設の説明を受けた後、子どもたちが自由に遊びまわっているなか、私たちも子どもたちに混ざって遊具を楽しみつつ、館長からは施設の中から見ると風景やランドスケープと一体となる佇まいについての説明もあり、感嘆の声と笑い声あふれる見学会となりました。



エクスカージョンB 羽州街道をめぐる上山 山形支部 土屋ひとみ

参勤交代の宿場町として栄えた羽州街道榎下宿をめぐる上山コース。山形テルサを出発したバスの中では山形クイズで盛り上がり、最初に到着したのは丹野こんにゃく。懐石料理はこんにゃくだと言われなければわからないほど美味しい品々ばかりで、会話も弾み楽しい昼食となりました。その後、大黒屋にて出迎えてくれた榎下宿保存会の佐藤会長はじめ保存会の方々のガイドにて榎下宿を散策。猛暑の中、途中の休憩ではサプライズでのおもてなしにとても感動しました。最後は県指定文化財の脇本陣滝沢屋へ。惜しくも今年で引退だという名物ガイドさんの熱気を帯びた説明に皆さんすっかり引き込まれていました。榎下宿の町並みから400年の歴史を垣間見ると共に、地域住民や保存会の皆様の榎下宿に対する熱い思いを感じる貴重な体験となりました。



エクスカージョンC 慈恩寺散策と道の駅寒河江 西村山支部 奥山麗子

寒河江市内を案内するCコースでは、秋の味覚「芋煮御前」やスイーツを堪能していただいた後、2024年に竣工した子育て支援施設「さくらんぼこどもキャンパスCLAPPIN SAGAE」へ。サクランボの花びらをモチーフにした複雑な形状をRC、鉄骨、木のハイブリッド構造で再現、工事担当者による異種構造の取り合いの難しさや納まりなど施工技術の説明の後、館内をめぐる。頂上の展望フロアからは天気にも恵まれ、葉山や月山など周辺の山々を一望することができました。見学に参加してくださった方々も思わず童心にかえり大型ネット遊具を体感していただく場面もありました。慈恩寺では国指定重要文化財である本堂で、約70年ぶりの茅葺屋根の全面葺き替え工事を終えた、シャープで真新しい茅葺屋根の美しい姿を見ることができました。当日は特別拝観が催されており、ガイドの方から様々な仏像の話や慈恩寺の歴史を聞くことができ、慈恩寺の魅力を感じられるいい機会となりました。



エクスカージョンC 「将棋の書き駒・紅花染め体験」 と「天童木工本社ショールーム見学」 天童支部 三浦仁恵

Dコースは「体験」をテーマに天童で開催。地元食材を使った昼食の提供や、書き駒・紅花染めの体験、天童木工ショールームの見学など、天童ならではの魅力を感じていただける内容となりました。休日返上でご協力くださった天童木工さんはじめ、大会の片付け後に天童まで駆けつけてくださった青年委員や会員の皆さんのおかげで無事に終えることができました。



全国から集まった参加者の皆さんとの交流に加え、地元の皆さんのあたたかさに触れた山形大会は、忘れられない経験となりました。

エクスカージョンE 銀山温泉一泊ツアー 村山支部 五十嵐理恵

注目の「銀山温泉」ということで、募集人数ぎりぎりの44名と連合会古谷会長ご夫妻、上原副会長ご夫妻とで、計48名の参加となりました。全大会終了後、大型バス1台と伴走車1台で出発。スタッフ4名は各2名に分かれてのおもてなしです。お昼は名物「冷たい肉そば」、まずは肉そば発祥の地、河北町の「白鳥十郎そば本舗」へ向かいました。お店の不手際か、大人数の我々にはなかなかでてこない。ここで伊藤会長と共に合流した古谷会長、上原副会長がたまたまビールを注文されましたが、さぞかし喉にしみわたったことでしょう。昼食後、伴走者チームは、前日、講師を務められた瀬野氏、鍋野氏をピックアップ。「古勢起屋本館」にて改修工事設計者の瀬野氏より直接皆さんに説明をしていただきました。時間差・二交代の説明会でしたが、なかなか細かな質問もあり、さすがの瀬野先生もタジタジだったようです。鍋野先生もある参加者さんから翌日の自邸見学を要望されたとのことでした。夜の銀山温泉はもちろん、時間に追われはしましたが旬の山形を堪能していただいたと思います。我々4人と入替わりで宿泊、翌日見送りまで対応していただき、また熱慮を重ね行程を組まれた実行委員会の皆さん、大変お疲れさまでした。

